

1 単元名・教材名 「What do you want? ～新本小の先生にオリジナルピザを作ろう～」
『Let's try2』Unit7 「What do you want?」

2 単元の目標

- 食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。 (知識・技能)
- 欲しい食材などを尋ねたり要求したりするとともに、自分のパフェやピザを紹介する。
(思考力・判断力・表現力)
- 相手に配慮しながら、自分のパフェやピザを紹介したり、欲しいものを尋ねたりしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきり話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと 【やりとり】	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

4 単元の評価規準 ※記録を残す評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉What do you want? I want~, please.などの表現や野菜・果物・肉の言い方など、情報を聞き取るために必要な表現や語彙について理解している。 〈技能〉What do you want? I want~, please.などの表現や野菜・果物・肉等の情報を聞き取る技能を身に付けている。	自分や相手のパフェやピザを作るために、外国の市場の様子を見てそれぞれの国の違いに気付いたり、市場でのやり取りを聞いてその概要を捉えたりしている。	自分や相手のパフェやピザを作るために、食材や欲しい物などについての簡単な語句や基本的な表現を聞き取ろうとしている。
話すこと 【やりとり】	〈知識〉What do you want? I want~, please.などの表現や野菜・果物・肉の言い方など、情報を聞き取るために必要な表現や語彙について理解している。 〈技能〉オリジナルパフェやピザを作るために、What do you want? I want~, please.などの表現や野菜・果物・肉の情報を伝え合う技能を身に付けている。	自分や相手のパフェやピザを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	自分や相手のパフェやピザを作るために、食材や欲しい物などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

5 指導上の立場

(1) 単元観

本単元では、「新本小の先生にオリジナルピザを作ろう」というゴール設定をし、そのために欲しい食材を尋ねたり要求したりする学習を重ねていく。

これまでに児童は、英語科で好きな遊びや曜日を尋ね合ったり、おすすめの文房具セットを作って紹介し合ったりする活動を通して、英語によるコミュニケーションの楽しさを少しずつ味わってきた。

本単元では、児童が今までに慣れ親しんだ語彙や表現も使って、児童同士で二往復以上のやり取りをするよう活動を設定する。何往復かのやりとりを経験し、言葉で通じ合うことの楽しさを十分に感じさせたい。**What do you want? ~, please.**は既に3年生で慣れ親しんでいる表現であることを踏まえ、本単元では答え方をフレーズではなく、**I want ~, please.**と文表現にした。このことは、5年生以降での文構造への気付きに繋がっていく。

そこで、二往復以上のやりとりを実現させるために、児童にとって親しみのもちやすいパフェやピザを作ることにした。これらのメニューで使用する食材は、果物、野菜、肉のように児童らがすでに獲得している語彙が使われている。そのため、児童は店員と客としてのやりとりに集中しやすいメニューであると考え。さらに、やりとりの設定を店員と客にすることで、注文するときのやりとりがある程度定型化されており、取り組みやすく、児童が意欲的に活動できると期待される。

(2) 児童観 (男子7名 女子2名 計9名)

本学級の児童は、自分の考えに自信をもつと積極的に発言をすることができる。しかし、初めてのことや自信のないことには消極的になることがある。英語特区としてこれまでの学習の積み上げがあり、単語に関しては抵抗感なく学習に取り組むことができる。しかし会話になると1往復のみで終わり満足してしまうのが現状である。

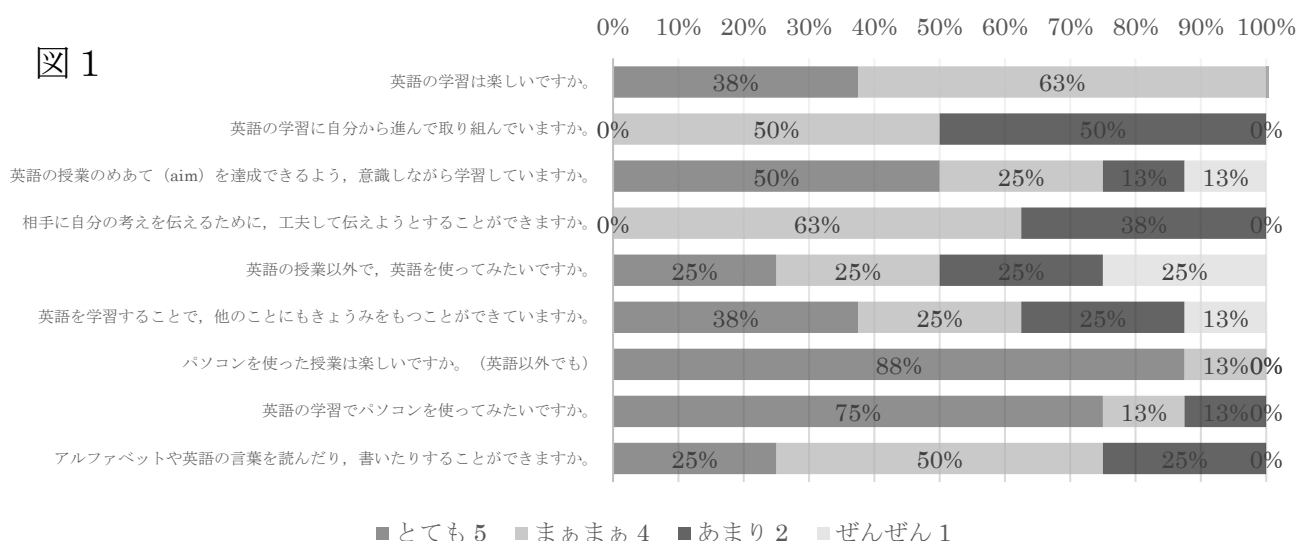
今年度5月に行った英語アンケートでは、「英語の勉強が楽しいですか」に対してほとんどの児童が肯定的な回答を示している。しかし、「英語の学習に自分から進んで取り組んでいますか」の問いに肯定的に答えた児童は50%と低い結果となった。「英語は楽しいけれど、自分からは進んで取り組むことができていない」ことが分かった。一方で「英語の学習でパソコンを使ってみたいですか」に対しては88%の児童が肯定にとらえていることが分かり、ICTの活用をきっかけに児童の主体的な学びが期待できると考えた。

そこで本単元では、児童が英語の学習に進んで取り組むことができるように、聞くだけでなく話すことにより重点を置いていく。会話が続く二往復以上のやりとりの経験を通して、「できた。」「できるかも」という児童の意欲の高まりから、さらに「英語でもっと話してみたい」「もっとこうしてみたい」という主体的な学びを期待する。また、ICTの活用をきっかけに、視覚的にも分かりやすく活動に取り組むことができるようにしていきたい。

また、給食について苦手意識をもつ児童がいる。そこで英語の食材を題材とする本単元を通して、今まで避けていた食材に興味をもつきっかけとなってほしいと考えた。他の児童や教師の好きなものをやりとりの中で聞いて、食への関心が少しでも高まることも期待したい。

英語アンケート (4年)

図1



(3) 研究主題との関わり

本校の研究主題は「主体的に学びに向かい、思いや考えを伝え合う児童の育成～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を通して～」であり、本校の考える仮説についての基本的な考え方は、次の3つである。

仮説

- 1 目的意識や相手意識・必然性を感じる課題設定を考えることで、児童が主体的に学びに向かい、様々な事柄への見方・考え方を広められるようにするだろう。(新本オリジナル)
- 2 児童に到達してほしい姿を示し、課題においてどのような姿を目指すのかを、児童と教師の双方が理解しながら活動することで、「学びに向かう力、人間性等」を高めることができるだろう。
- 3 ICT 機器を授業の中で効果的に活用することで、学習動機や学習効果が高まり、主体的な学びやコミュニケーション能力の向上につながられるだろう。

1 について

本単元では「新本小の先生にオリジナルピザを作ろう」というゴールを設定することにより、児童が主体的に学び、やりとりの必然性をもって取り組むことができるのではないかと考える。これまで児童数9人という少人数の特性上、グループ活動には限界があった。友達から身近な存在である新本小の先生に対象を広げることで、より相手を意識した活動ができるようになる。そこで単元のゴールを「新本小の先生にオリジナルピザを作ろう」とした。What do you want?の表現を使いながら、進んで欲しい物を尋ねたり、答えたりできるようにする。さらに、How many?や Do you like~?など、既習の知識を活用して二往復以上のやり取りを行う場面を設定することで、児童が、コミュニケーションを円滑にするための言語の働きに気づき、言語によるやり取りの大切さを実感できるようにしたい。

本時では、新本小の先生にピザの注文をとる場面を設定する。児童は店員となり、自分のおすすめピザを紹介した後、客役の教師とのやりとりを行う。店員は相手の言ったことを確認するために、客の要望をしっかりと聞く必要がある。客の要望を引き出すためにやりとりを行うことによって、英語でコミュニケーションをとる楽しさを実感させて、主体的な学びに向かうようにさせていきたい。また複数の客の要望を聞き出すことは、相手によって欲しいものや個数が違うなど、いろいろな思いの違いに触れることが考えを広げていく一歩であるとする。活動の前半終了後に中間交流の場を設け、やり取りを通して生じた課題や、友達が使っていた表現を全体に共有することで、後半の活動に活用できるようにする。

2 について

単元の初めにやりとりのモデルをゴールとして示すこととする。担任とALTの会話を動画で示すことで単元を通して何度も確認することができるようにする。ゴール動画を見ることで、視覚的に単元のゴールをつかむことができるようになる。また、初めて動画を見た際に「どんなことが大切か。」を問うことで、児童と一緒に課題を認識できるようにしたい。

また、「自分のめあて(my aim)」の設定であるmy aimとは、学級のめあてとは別に自分で設定するめあてのことである。毎時間、本時の中で自分がどう頑張るのかを考え振り返りを行うことで、より自分事として考えることができる。単元ごとに教師が示した「がんばるリスト」を示し、それを参考にしながらmy aimを考えていくようにしている。このことは、自分の学習状況を知ることができ、児童の「学びに向かう力、人間性等」を高めることができるようになる。

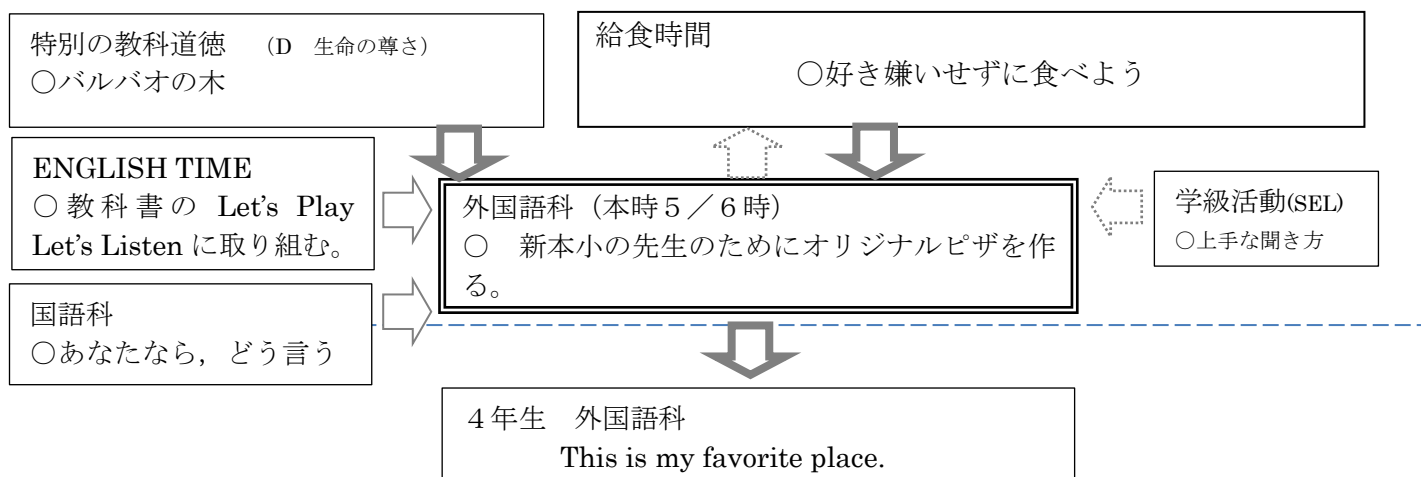
3 について

本単元では、e-net(熊本市地域教育情報ネットワーク)のアプリを活用する。これまでは、教科書の巻末絵カードを切り取ったり、絵を描いたりすることでやり取りを行っていた。しかし、切ることに時間

を割いたり、授業の終盤にはなくしてしまったりする児童もいた。誰もがいつでも何度でもやり直して授業に参加することができるようにするために、本単元では2種類のアプリを活用することとする。一つ目は、オリジナルパフェのアプリである。果物、アイスクリームなどをカーソルで動かしながら皿に盛りつけることができる。児童がやりとりをしながらパフェを完成させることができ、達成感が高まっていくと考える。

二つ目は、オリジナルピザのアプリを活用する。本時では、前時までに作った自分のオリジナルピザの紹介をアプリの画面を見せながら行う。その後、新本小の先生にピザの注文を英語でとるようにする。アプリ上ですぐにピザを完成させることができるので、よりやりとりに集中し、楽しむことができるのではないかと考える。

6 関連構想図



7 本時案 (5/6時)

(1)本時のねらい

- ・ 既習の表現を用いながら、自分のおすすめピザを伝えたり、相手が欲しい物を尋ねたり答えたりすることができる。
- ・ 二往復以上のやり取りを通して、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わうことができる。

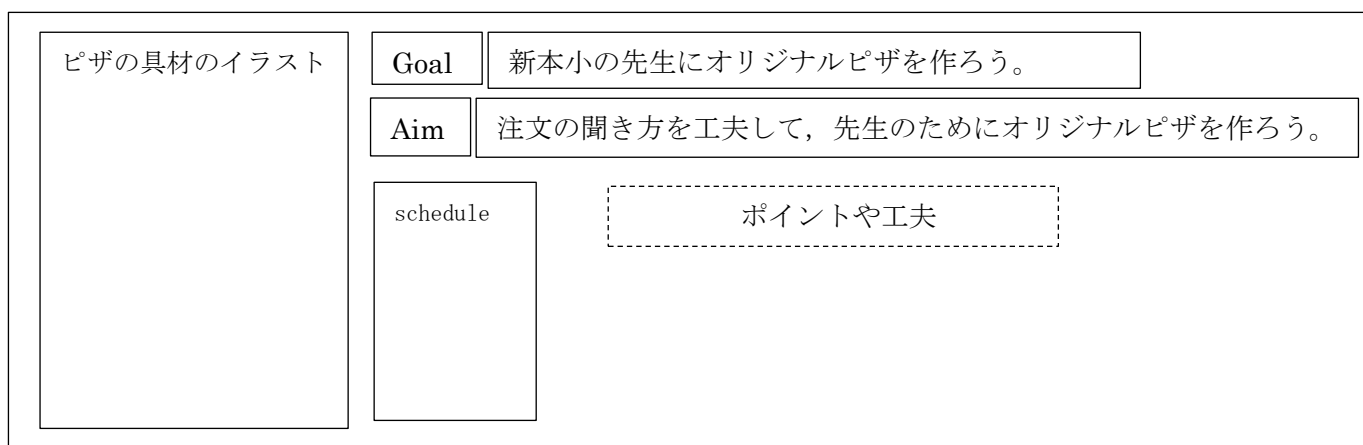
(2)展開

学習活動	教師の指導・支援(●HRT, ■ALT, ◆HRT)	学習評価
1 Greeting	●■英語で挨拶をした後、気分や天気、曜日、日付、好きなものなどについて尋ねることで、日常的に使える英語表現に慣れ親しむことができるようにする。	
2 Warm up chant alphabet writing	●■チャンツでは、児童が選んだ果物や野菜に替えて歌うことで意欲を高めることができるようにする。 ●■アルファベットを書く活動では、ランダムに選んだアルファベットの大き文字を2回ずつ書くことで、アルファベットを書くことに慣れることができるようにする。	
3 Review Demonstration	●■デモンストレーションを見せることで、本時のめあてをつかむことができるようにする。 ① 店員●Hello. This is Miki's pizza. I have a tomato and corn. It is nice. What do you want? 客■I want tomatoes, please. 店員●OK.(15 tomatoes)Here you are.	

	<p>客■Oh…</p> <p>●客がどうして困っているかを問い、どうすればよかったか話し合うことで既習の表現や、やり取りのポイントを思い出せるようにする。</p> <p>②</p> <p>店員●Hello. This is Miki's pizza. I have 10 tomatoes and 3 corns. It is nice. What do you want?</p> <p>客■I want tomatoes, please.</p> <p>店員●How many?</p> <p>客■Two, please.</p> <p>店員●OK. Two tomatoes.... Here you are.</p> <p>客■Thank you. I like tomatoes.</p> <p>店員●Me too. Thank you.</p> <p>●どんなことが分かったか話し合う中で、本時のめあてをつかむことができるようにする。</p>	
4 Aim	<p>Aim 注文の聞き方を工夫して、先生のためにオリジナルピザを作ろう。</p>	
<p>5 Activity</p> <p>・前半</p> <p>・中間交流</p> <p>・後半</p> <p>6 Comment time</p>	<p>●My Aim として、本時で特に頑張りたいことを自分なりに考えることで、自ら学ぼうとする意欲を引き出すようにする。</p> <p>●各グループ1～2人の先生に客役になってもらい、児童が店員となり注文を聞くことで、先生のためのオリジナルピザを作ることができるようにする。</p> <p>◆特に支援を要する児童の様子をみたり、声をかけたりして、活動に参加できるようにする。</p> <p>●しっかり質問や反応している児童を称揚する。</p> <p>■誤った発音があれば正しい発音をして、児童の気付きを促すようにする。</p> <p>●よかったこと、難しかったことなどについて確認することで、より良い活動になるよう、話し合いを促すようにする。</p> <p>●ポイントについて確認することで、児童が次の活動に活かせるようにする。</p> <p>●■中間交流を踏まえて、変化した姿を称賛することで意欲的に活動できるようにする。</p> <p>●完成したピザをタブレット PC でスクリーンショットし、各自保存しておくことを伝え、次時につなげることができるようにする。</p> <p>●本時の学習で新たに学んだことや今後生かしていきたいことを記述することで、学びに向かう力を高められるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・先生たちのために英語を使ってピザを作ることができた。</p> <p>・今までに習った英語を使うと、たくさん英語で会話することができた。</p> </div>	<p>◇質問を工夫したり、相手が話しやすいように反応したりしてやり取りができていく。〈行動観察〉</p> <p>【思・判・表】<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>【主】<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>◇自分の変容に気付いたり、学びを自覚したりしている。〈書き込み点検〉</p> <p>【思・判・表】<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>【主】<input checked="" type="checkbox"/></p>

7 Greeting	<ul style="list-style-type: none"> ■発音や表現について気付いたことを伝え、今後頑張りたいことに気付くことができるようにする。 ●前時の様子と比べて良くなったところや児童が関り合う様子を見て、感じたことを伝え、成長の喜びを感じられるようにする。 ●■気持ちのよい挨拶をすることで、次時への意欲を高めることができるようにする。 	
------------	--	--

(3) 板書計画



8 本単元で使用したアプリ

出典：e-net(熊本市地域教育情報ネットワーク) <http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/>